

第14回 訪問看護研究発表会

平成31年3月2日(土) 13時~16時30分 佛教大学二条キャンパス N1-701号室

日々の在宅看護実践から研究を行うことを通して訪問看護の質向上を図る。

また、看護学生・多職種への訪問看護の普及啓発、「京あんしんネット」を活用した連携を推進し、地域での連携体制構築を目指すと共に新たな訪問看護師確保へ繋げる。



シンポジウム

「男性家族介護者の介護負担軽減と虐待防止について考える」

▶シンポジスト◀

京都府立医科大学医学部看護学科
 佛教大学保健医療技術学部看護学科

關戸 啓子 氏
 植村 小夜子 氏

▶ファシリテーター◀

園田学園女子大学人間健康学部看護学科 堤 かおり 氏

現在、長寿国である日本は、高齢化と家族の人員減少がすすむ中で、疾病を抱え介護を必要とする高齢者が急増しており介護に関する問題が深刻化している。加えて女性の社会進出などにより、家族看護力の低下が進行し、家族介護者支援の重要性が増してきている。男性が介護を担う割合は年々増加の傾向にある。従って、男性家族介護の実態を明らかにしていくことは、重要な課題である。

在宅で介護をしている男性介護者、27人に質問紙調査とインタビューガイドを用いた半構成的面接を行った。その結果、彼らは介護をまるで仕事のように捉えてこれまでの得た知識や対処方法を生かしながら、気分転換をはかれる時間を持ち介護に関する制度をうまく利用して、ストレスに対処し介護負担を軽減させていると推察された(表1)。



プログラム

開会あいさつ	13:00
シンポジウム	13:35
「男性家族介護者の介護負担軽減と虐待防止について考える」	
発表:前半の部	14:10
座長	柴崎 美登子
発表者	板野 綾佳 下工垣 陽子 田中 美樹 岡部 千晴
質疑応答	14:45
発表:後半の部	15:10
座長	小林 菜穂子
発表者	田中 陽子 森 伸子 辻 理絵
質疑応答	15:30
講評	15:40
訪問看護ステーションの実習を終えて	
	16:10
閉会あいさつ	16:30

次に、在宅で介護している家族介護者の性別による特徴と、その支援方法を検討するため、在宅で介護している 29 人の女性家族介護者の特徴を明らかにした。その結果、女性は、日常生活の中に介護を柔軟に取り入れて対処するものの、体力的、経済的には不利な面もあることが特徴として浮き彫りになった。介護は女性がするのが当たり前で男性よりも向いていると考え、介護を受け入れている状況があり、女性は家庭を守るという伝統的な考えが背景にあることが示唆された(表 2)。

男性は、介護を自分以外の人に任せ、大変さや困ったことを他人に知られたくない傾向が女性に比べ高く、介護を仕事のように熱心に行う傾向があることに配慮した支援が必要である。



表1 男性家族介護者の特徴

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
介護方法を自分で学びとる	介護方法にこだわりがある	自分以外の人には任せられない
		介護を自分のやり方でやりたい
		被介護者に自分の思い通りにしてほしい
	介護方法は自分で学びとる	生活援助に過去の経験を活かす
介護をまるで仕事のようにとらえている	介護方法に自分で学びとる	介護について書籍から知識を得る
		介護者会にはほとんど参加しない
先で働いていた知恵が介護に活かされている	社会で働いていた知恵が介護に活かされている	時間管理が上手い
		他人に弱みを見せない
先の状況を見越した介護をする	先の状況を見越した介護をする	制度等を自己で選択し使いこなす
		被介護者の状態が今よりもよくなる様にと考えて介入している
		被介護者の急性期・終末期の対応について判断基準を準備している

表2 女性家族介護者の特徴

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
女性の柔軟性	生きる過程で身につけた対処行動をとる	生活の中の一環である
		今を乗り切る
		こだわらずに助けを求める
	介護者が優位な関係に変化する	介護の意味を見出す
女性の不利益性	女性が介護をするという社会的規範が存在する	自分のペースで行える
		生活の主導権が握れる
		介護を自然に受け入れる
	身体的疲労が精神的負担を増大させる	介護を押し付けられる
		女性から女性に介護が引き継がれる
		四六時中手がかかるため心が休まらない
	経済的不安がある	終わりが見えないつらさがある
		生活行動の全てに手がかりストレスになる
		公的制度を利用するのに必要な経済負担がある
		自分の将来における経済不安がある

発表：前半の部

座長 柴崎 美登子 洛和会訪問看護ステーション壬生

- ▶ 一人歩きする独居認知症高齢者が住み慣れた地域で生活するための訪問看護の働きかけ
結ノ歩訪問看護ステーション 板野 綾佳
- ▶ 2型糖尿病 A 氏の療養状況が改善しない要因
訪問看護ステーションゆたかの 石崎 真紀
- ▶ 訪問看護ステーションにおける災害時要援護者に対する防災準備の役割と認識
ステーションイルカ 田中 美樹
- ▶ サービス提供を拒否する利用者との関わり ～ICF を活用した2事例の振り返り～
済生会訪問看護ステーション 岡部 千晴



発表：後半の部

座長 小林 菜穂子 訪問看護ステーションどんぐり

▶人間対人間の看護である補完代替医療としてのアロマセラピー

ふじた医院訪問看護ステーションプラム

田中 陽子

▶家族の声からターミナルケアを考える

おもいやり訪問看護ステーション

森 伸子

▶独居者の「最期の時も自宅で」という希望を叶えるための効果的な支援要素の考察 ～4名の看取りケアを振り返って～

緩和ケア訪問看護ステーション架け橋

辻 理絵



講 評

佛教大学保健医療技術学部看護学科 教授 植村 小夜子 氏



看護研究をする上で…

- ケースレポートと看護研究の違いを知る。
- どちらも実践の能力をより高めていくという点においてはとても意義がある。
- 両方の違いをしっかりと把握し、**目的に応じて使い分けていく**必要がある。
- **事例に焦点**をあてるのか？または**リサーチクエッションを解くことを目的**として事例を分析するのか？の違いがある。

実践現場では、ケースレポート及びケースカンファレンスは必要かつ重要

	ケースレポート（実際には事例検討・症例検討・事例報告・症例報告などの言い方もある）	事例研究
目 的	実践の論理的な振り返り 「自分が行ったこと」の振り返り	リサーチクエッションの解決による知の創造 「リサーチクエッションの答えを得ること」
成 果	レポート作成者の実践能力の向上	新たな知見
構 成	タイトル・はじめに・事例紹介・看護の実際・考察・結論・文献	研究テーマの設定・文献レビュー・研究目的の設定・分析事例の選定・データ収集方法の設定とデータ収集・データの分析・結果（事例の記述）・考察（解釈と類似性の提示）

研究発表抄録作成のポイント

序論（はじめに）	研究方法	結果	考察
研究で明らかにしたいこと(リサーチクエッション)研究目的が書かれているか	- 研究目的を達成するためにどのように分析したか - 研究デザイン/用語の定義/対象者/データ収集期間/データ分析方法/倫理的配慮	目的(リサーチクエッション)を明らかにする根拠、方法に基づいて得られた結果が書かれているか	結果で示された情報が具体的にどのような意味や価値があるか示されリサーチクエッションに対する答えが書かれているか

誰が読んでも研究内容を論理的に理解しやすいようになっているか



訪問看護ステーションの実習を終えて ～在宅実習での学び・感想～／看護学生

学校法人光華女子学園 京都光華女子大学
同志社女子大学

学校法人 京都保健衛生専門学校
学校法人佛教教育学園 佛教大学

(発表順)

『学生が訪問看護ステーション実習で学んだこと』

- ・看取りの場面では、病院では出来ない在宅ならではのケアが出来るということ
- ・療養者および家族が望む生活を最後まで送れるよう心身のケアを行うことが大切
- ・家族や地域との繋がりを大事にしながらサポートすること
- ・限られた訪問時間の中で、優先順位を考え、その人らしさを尊重した個別ケアを的確に行うこと
- ・押し付ける事なく、思いに寄り添い、時には一歩引いた関わりを持つこと
- ・小児から高齢者と年齢の幅、疾患もさまざまであり、その人に合ったケアが大切
- ・病院では、家族と患者を切り離して考えていたが、在宅では本人と家族も含めたケアが必要ということ
- ・次の訪問日までの生活や医療の安心安全を担保し、予測的予防的な関わりを持っていたこと。
- ・訪問看護師が関わることで、療養者の自分らしい生活の実現につながっている



編集後記

春という季節を忘れさせるほど、超満員になった佛教大学の会場は熱気に包まれ、第14回訪問看護研究発表会は大盛況の中、無事終了いたしました。

今回は7題の研究発表に加え、いつもご指導を受け賜っている植村先生および関戸先生方のシンポジウムと、看護学生の方々に実習の感想を述べていただくという初の試みでした。

皆様にとって学び多き密度の濃い時間になった事と思われます。

日々忙しい中、研究発表に取り組んでいくことはとても大変です。しかし、看護の質を高め仲間と共有する為には、とても重要なことです。

皆さんこれからも切磋琢磨していきましょう！

京都府訪問看護ステーション協議会 広報委員会